

過活動膀胱の新しい治療



尿が間に合わない、
回数が多いなど、
過活動膀胱でお困りの方へ、
新しい治療のお知らせです。

過活動膀胱というのは
「尿が間に合わない(尿意切迫感)」を
主訴とした症状といわれており、
頻尿(尿の回数が多い)、
夜間頻尿(夜何度も起きる)を伴います。

こんなお悩みの方に

尿が間に合わない



尿の回数が多い



夜間頻尿(夜何度も起きる)



治療の中心としてベタニス・ベオーバ・ベシケア・トビエース・
プロピペリン・ウリトスなどの内服薬を単独で、
あるいはいくつか組み合わせるものが主流でした。
最近、内服薬以外の治療が新しくできるようになってきたので、
ご紹介します。



1 ボトックス療法



どんな人に
おすすめですか？

内服薬を飲んでいても、
週に1回以上は
尿もれがある方

麻酔をして膀胱の中に内視鏡をいれて、
医療用の細い針を使って膀胱の壁にボトックスという
お薬を注射します。3日ほどで過活動膀胱の症状である
「急に尿に行きたくなる感じ」がやわらいできて、
頻尿もおさまります。治療の時間は10分程度です。

良い点

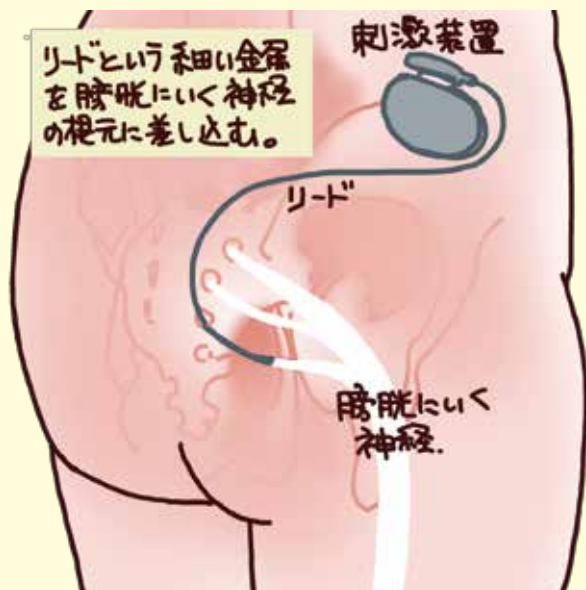
症状が治まるので尿回数が減つたり、
内服薬を止めることができるかもしれません。
日帰りで治療できます。

悪い点

効果は4~8ヶ月と言われているので、
時期がきたらまた治療を繰り返す必要があります。
治療後に膀胱炎を起こすことがあります。



2 仙骨神経刺激療法



全身麻酔で
10日間ほどの
入院です。



全身麻酔で、はじめにリードという細い金属を膀胱にいく神経の根元に差し込みます。1週間程度、試験的に神経刺激をして、効果がみられる場合は刺激装置（オレオクッキー程度のサイズです）を局所麻酔でお尻のところに埋め込みます。試験刺激の期間も含めて10日間程度の入院になります。

良い点

試験刺激で合わなかった場合には、リードをはずして途中で退院することができます。治療を行なって、退院後は刺激の強さを調節することで、ご自分の生活に合わせることができます。過活動膀胱をもとから治療することになります。

悪い点

MRI検査はこの治療のあとは受けることができません。リードがずれたり、器械に感染を起こした場合、器械をいったん取り外す必要があります。



どんな人に
おすすめですか？



ある程度以上重症の過活動膀胱の方になります。

内服薬を飲んでいても、
頻尿や尿失禁がひどい方

内服薬以外の過活動膀胱の
治療を受けたい方

それ以外にも生活の習慣を見直すことで尿もれが軽くなったり、別に尿もれの原因がある場合もございます。現在、過活動膀胱の治療を受けている方で、今の治療にちょっと満足できない、もっと良い治療はないか相談したい方は下記までご連絡ください。



公益財団法人

ときわ会
TOKIWAKAI GROUP

常磐病院 泌尿器科外来
Jyoban Hospital

代表電話(0246)81-5522